

# 2016年度 第1四半期 決算概要

- 
- I. 2016年度 第1四半期 連結業績概要
  - II. セグメント別情報
  - III. 鴻海精密工業グループとの戦略的提携  
について
  - IV. 補足資料
- 

シャープ株式会社

2016年7月29日

## 【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えうるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

# I . 2016年度 第1四半期 連結業績概要

**SHARP**

1

- ・ 本日はご多忙な中、お集まり頂きありがとうございます。  
また日頃は、当社の広報(IR)活動にご協力頂き、まことにありがとうございます。
- ・ それでは、お手許にお配りしておりますパワーポイント資料に沿って、説明いたします。

# 2016年度 第1四半期 連結業績概要

- ・2016年度 第1四半期、売上高は、大手顧客向け中小型液晶・カメラモジュールの販売減や米州における液晶テレビ事業のブランドライセンスビジネス化等により、前年同期比31.5%の減少
- ・売上高は減少したものの、構造改革の取り組みなどにより赤字幅は縮小

(単位:十億円)

|                               | 2015年度           | 2016年度           |        |
|-------------------------------|------------------|------------------|--------|
|                               | 1Q               | 1Q               | 前同比    |
| 売上高                           | 618.3            | 423.3            | -31.5% |
| 営業利益<br>(利益率)                 | -28.7<br>(-4.7%) | -2.5<br>(-0.6%)  | -      |
| 経常利益<br>(利益率)                 | -33.3<br>(-5.4%) | -22.3<br>(-5.3%) | -      |
| 親会社株主に帰属<br>する四半期純利益<br>(利益率) | -33.9<br>(-5.5%) | -27.4<br>(-6.5%) | -      |

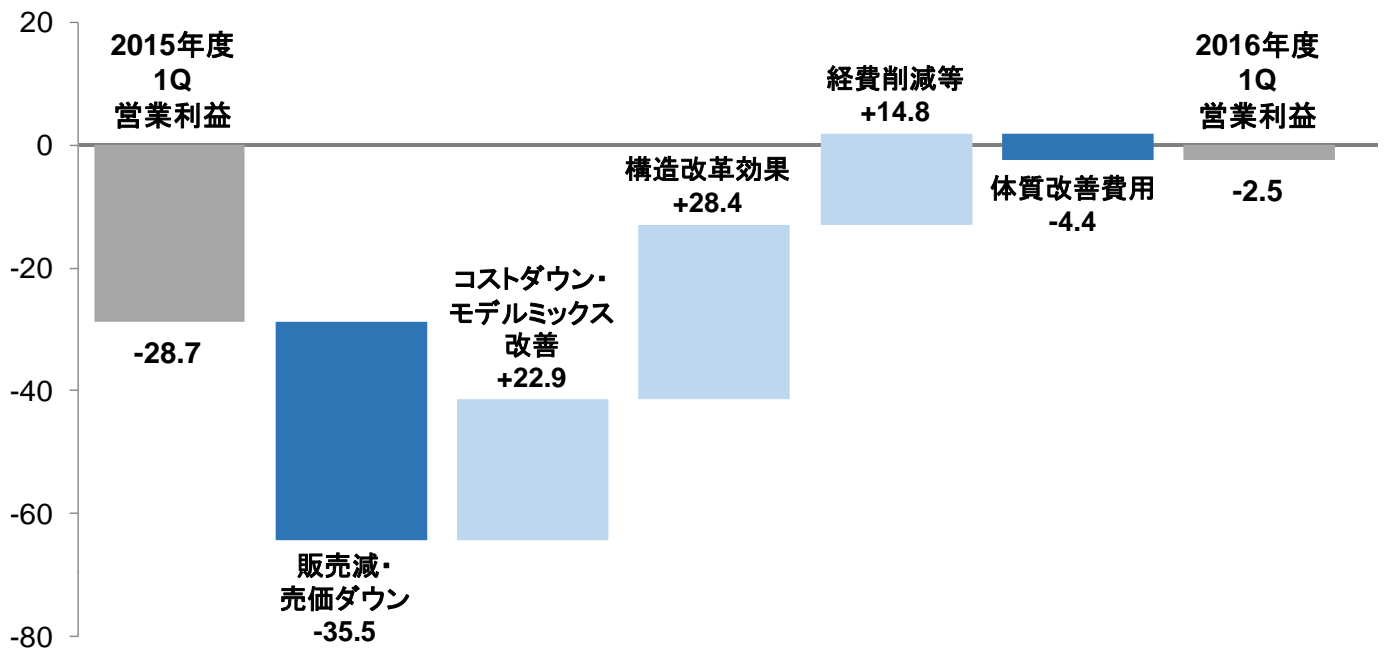
**SHARP**

2

- ・まず、2016年度 第1四半期の連結業績概要です。
- ・売上高は前年同期比 31.5%減の4,233億円、営業利益は▲25億円、経常利益は▲223億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は▲274億円となりました。
- ・売上高は前年同期から大幅に落ち込んだものの、米州における液晶テレビ事業のブランドライセンスビジネス化、中国での液晶テレビ事業の体質改善、液晶事業の体質改善などによる、固定費削減効果もあり、営業利益は大幅に改善しました。
- ・なお、2016年度の業績予想につきましては、鴻海精密工業グループとの戦略的提携に伴うシナジー効果などの具体的な算定が可能となり次第、速やかに公表いたします。

# 営業利益増減分析(対前年同期)

(単位:十億円)



**SHARP**

3

- ・ 次のグラフは、営業利益の前年同期比での増減分析です。  
ご覧のように、営業利益は昨年に比べて、大幅に改善しています。
- ・ 販売の減少や売価下落による利益減を、コストダウンやモデルミックスの改善と、2015年度に実施した構造改革の改善効果でカバーしました。
- ・ 加えて、経費削減に取り組むとともに、今後の競争力を高める追加の体質改善処理も実施しました。

# セグメント別売上高

(単位:十億円)

|                     | 2015年度 | 2016年度 |        |
|---------------------|--------|--------|--------|
|                     | 1Q     | 1Q     | 前同比    |
| コンシューマー<br>エレクトロニクス | 201.9  | 153.2  | -24.1% |
| エネルギー<br>ソリューション    | 36.8   | 21.8   | -40.7% |
| ビジネス<br>ソリューション     | 80.6   | 77.5   | -3.8%  |
| 電子デバイス              | 136.6  | 75.0   | -45.1% |
| ディスプレイ<br>デバイス      | 187.8  | 117.0  | -37.7% |
| 小計                  | 643.9  | 444.7  | -30.9% |
| 調整額                 | -25.6  | -21.3  | -      |
| 合計                  | 618.3  | 423.3  | -31.5% |

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいません。

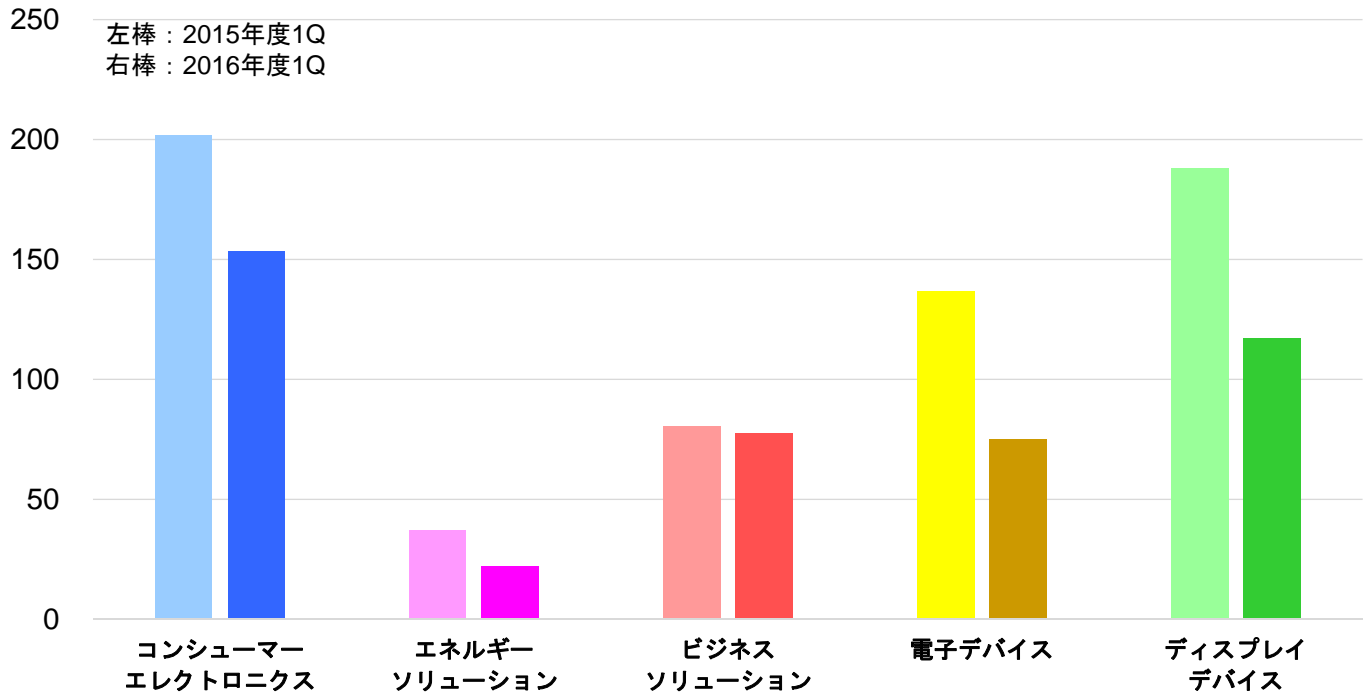
**SHARP**

4

- ・ 次のスライドは、セグメント別売上高の一覧です。

# セグメント別売上高

(単位:十億円)



※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

# セグメント別営業利益

(単位:十億円)

|                     | 2015年度           | 2016年度           |        |
|---------------------|------------------|------------------|--------|
|                     | 1Q               | 1Q               | 前同比    |
| コンシューマー<br>エレクトロニクス | -11.7<br>(-5.8%) | 12.5<br>(8.2%)   | -      |
| エネルギー<br>ソリューション    | -3.9<br>(-10.7%) | -6.3<br>(-28.8%) | -      |
| ビジネス<br>ソリューション     | 6.8<br>(8.4%)    | 5.9<br>(7.7%)    | -12.8% |
| 電子デバイス              | 2.8<br>(2.1%)    | 0.5<br>(0.7%)    | -82.3% |
| ディスプレイ<br>デバイス      | -13.7<br>(-7.3%) | -10.7<br>(-9.2%) | -      |
| 小計                  | -19.7<br>(-3.1%) | 1.9<br>(0.4%)    | -      |
| 調整額                 | -9.0             | -4.4             | -      |
| 合計                  | -28.7<br>(-4.7%) | -2.5<br>(-0.6%)  | -      |

**SHARP**

※()内の数字は営業利益率です。

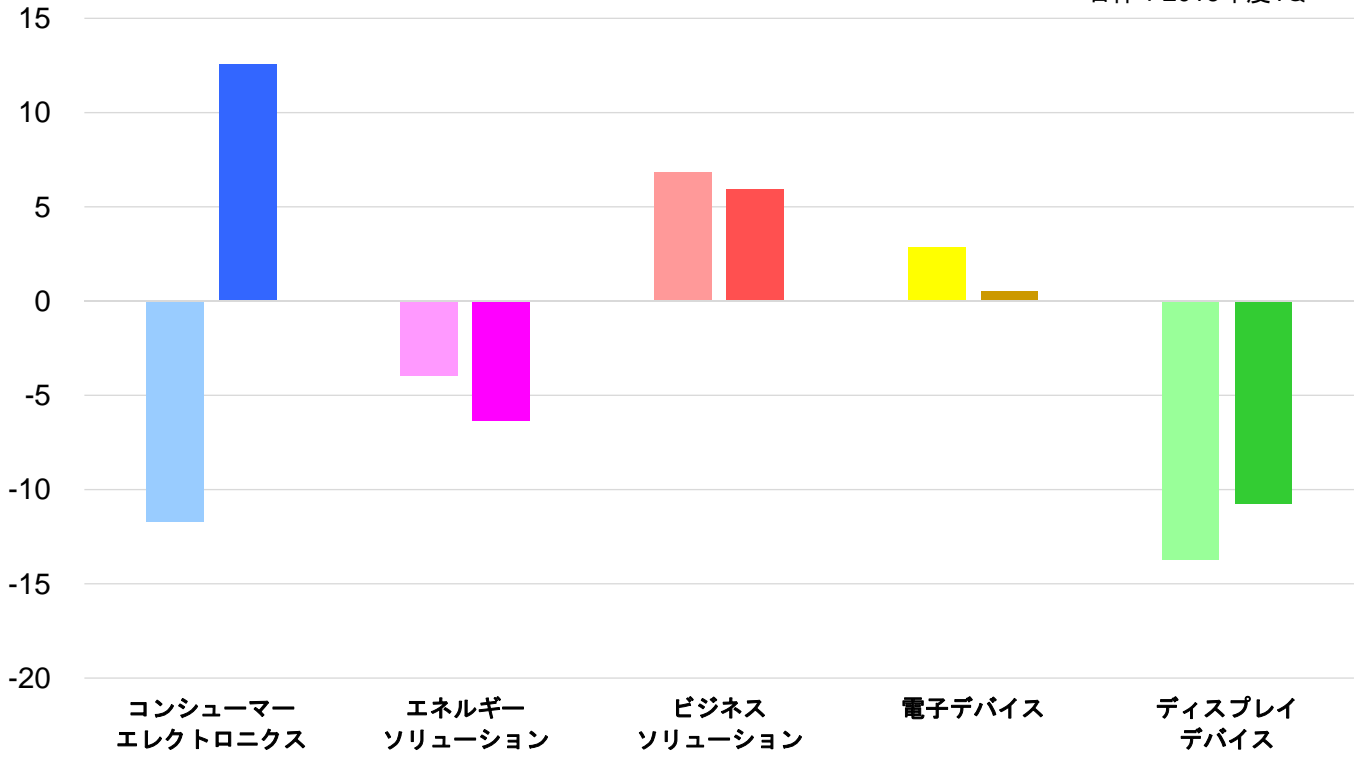
6

- ・ 続いては、セグメント別営業利益の一覧になります。  
ご覧のように、2015年度に実施した体質改善効果から、  
コンシューマーエレクトロニクスの収益が大幅に改善しています。
- ・ 各セグメントの売上高・営業利益の詳細については、後ほど説明いたします。

# セグメント別営業利益

(単位:十億円)

左棒 : 2015年度1Q  
右棒 : 2016年度1Q





# 営業外損益・特別損益・法人税等の概要

(単位:十億円)

|                      | 2015年度       | 2016年度       |           |
|----------------------|--------------|--------------|-----------|
|                      | 1Q           | 1Q           | 前同<br>増減額 |
| <b>営業利益</b>          | <b>-28.7</b> | <b>-2.5</b>  | +26.2     |
| <b>営業外損益</b>         | <b>-4.6</b>  | <b>-19.8</b> | -15.2     |
| 内:支払利息               | -5.5         | -2.4         | +3.0      |
| 持分法による投資損益           | +1.7         | -11.0        | -12.7     |
| <b>経常利益</b>          | <b>-33.3</b> | <b>-22.3</b> | +10.9     |
| <b>特別損益</b>          | <b>+3.0</b>  | <b>-1.0</b>  | -4.0      |
| 内:投資有価証券売却益          | +1.7         | -            | -1.7      |
| 訴訟損失引当金戻入額           | +2.0         | -            | -2.0      |
| 受取和解金                | +6.2         | -            | -6.2      |
| 減損損失                 | -6.5         | -1.5         | +5.0      |
| <b>税前利益</b>          | <b>-30.3</b> | <b>-23.3</b> | +6.9      |
| <b>法人税等 他</b>        | <b>-3.6</b>  | <b>-4.0</b>  | -0.4      |
| 親会社株主に帰属<br>する四半期純利益 | -33.9        | -27.4        | +6.5      |

**SHARP**

8

- ・ 次のスライドは、主な「営業外損益」・「特別損益」・「法人税等」の概要です。
- ・ 2016年度 第1四半期は、支払利息は減少したものの、堺ディスプレイプロダクト株式会社に係る「持分法による投資損益」が悪化したことなどから、「営業外損益」が悪化しました。

# 連結貸借対照表推移

- ・2016年6月末の現預金は、3月末比360億円減少の2,393億円
- ・自己資本比率は2016年3月末の-2.7%から-6.0%に減少
- ・シンジケートローンの更改により短期借入金が長期借入金に

(単位:十億円)

|              | 2015年度         |                | 2016年度         |                | 2015年度         |                | 2016年度         |                          |
|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--------------------------|
|              | 12月末           | 3月末            | 6月末            |                | 12月末           | 3月末            | 6月末            |                          |
| 現預金          | 234.5          | 275.3          | 239.3          | 支払手形・買掛金       | 362.9          | 278.6          | 240.6          |                          |
| 受取手形・売掛金     | 306.2          | 287.2          | 220.4          | 短期借入金          | 637.4          | 612.5          | 145.9          |                          |
| たな卸資産        | 299.0          | 184.3          | 186.2          | 1年内社債          | 20.6           | 20.0           | 20.5           |                          |
| その他          | 260.9          | 218.9          | 185.7          | その他            | 358.6          | 463.5          | 413.3          |                          |
| <b>流動資産計</b> | <b>1,100.8</b> | <b>965.9</b>   | <b>831.8</b>   | <b>流動負債計</b>   | <b>1,379.6</b> | <b>1,374.8</b> | <b>820.4</b>   |                          |
| 有形固定資産       | 368.4          | 351.2          | 345.6          | 社債             | 40.0           | 40.0           | 40.0           | 鴻海との戦略的提携に伴う<br>純資産想定増加額 |
| 無形固定資産       | 41.7           | 41.6           | 42.1           | 長期借入金          | 40.2           | 40.2           | 486.3          |                          |
| 投資その他資産      | 220.1          | 211.8          | 193.7          | その他            | 111.1          | 146.7          | 141.5          |                          |
| <b>固定資産計</b> | <b>630.3</b>   | <b>604.6</b>   | <b>581.5</b>   | <b>固定負債計</b>   | <b>191.4</b>   | <b>227.0</b>   | <b>667.9</b>   | ・普通株 288.8               |
| 繰延資産         | 0.0            | 0.0            | 0.0            | 純資産            | 160.2          | -31.2          | -75.0          | ・C種類株 99.9               |
| <b>資産合計</b>  | <b>1,731.3</b> | <b>1,570.6</b> | <b>1,413.4</b> | <b>負債純資産合計</b> | <b>1,731.3</b> | <b>1,570.6</b> | <b>1,413.4</b> | <b>純資産増加額 388.8</b>      |
|              |                |                |                | 自己資本比率         | 8.6%           | -2.7%          | -6.0%          |                          |

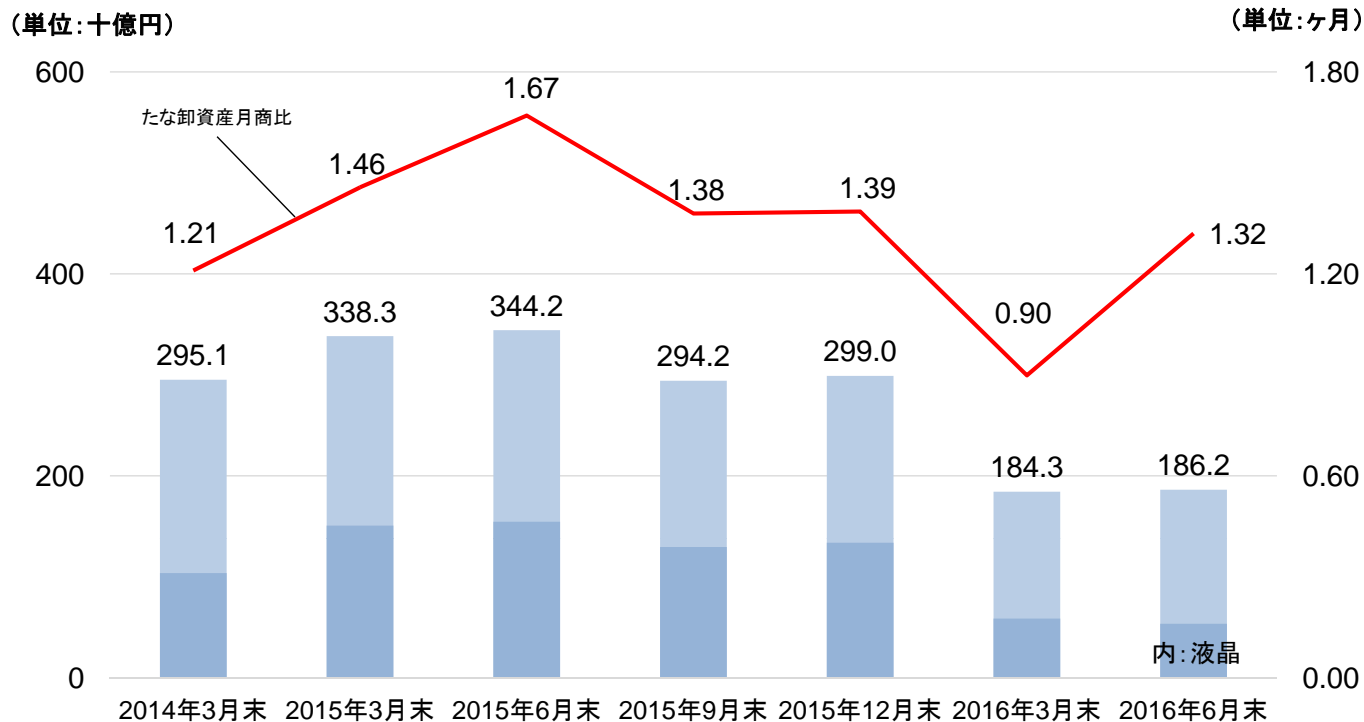
SHARP

9

- ・ 次のスライドは、貸借対照表の推移です。
- ・ 利益剰余金や為替換算調整勘定が減少したことなどから、2016年度 第1四半期末の「純資産」は、2015年度末に比べ438億円減少し、▲750億円となりました。「自己資本比率」についても、2015年度末の▲2.7%に対し、▲6.0%となっております。
- ・ なお、シンジケートローンの更改により短期借入金が長期借入金になり、財務の安定化に取り組みました。

# たな卸資産の推移

- ・たな卸資産は1,862億円で、2016年3月末比で19億円増加
- ・第2四半期以降の需要期と夏季商戦に備え、液晶パネルやエアコン等の生産対応を行ったものの、たな卸資産はほぼ横ばい



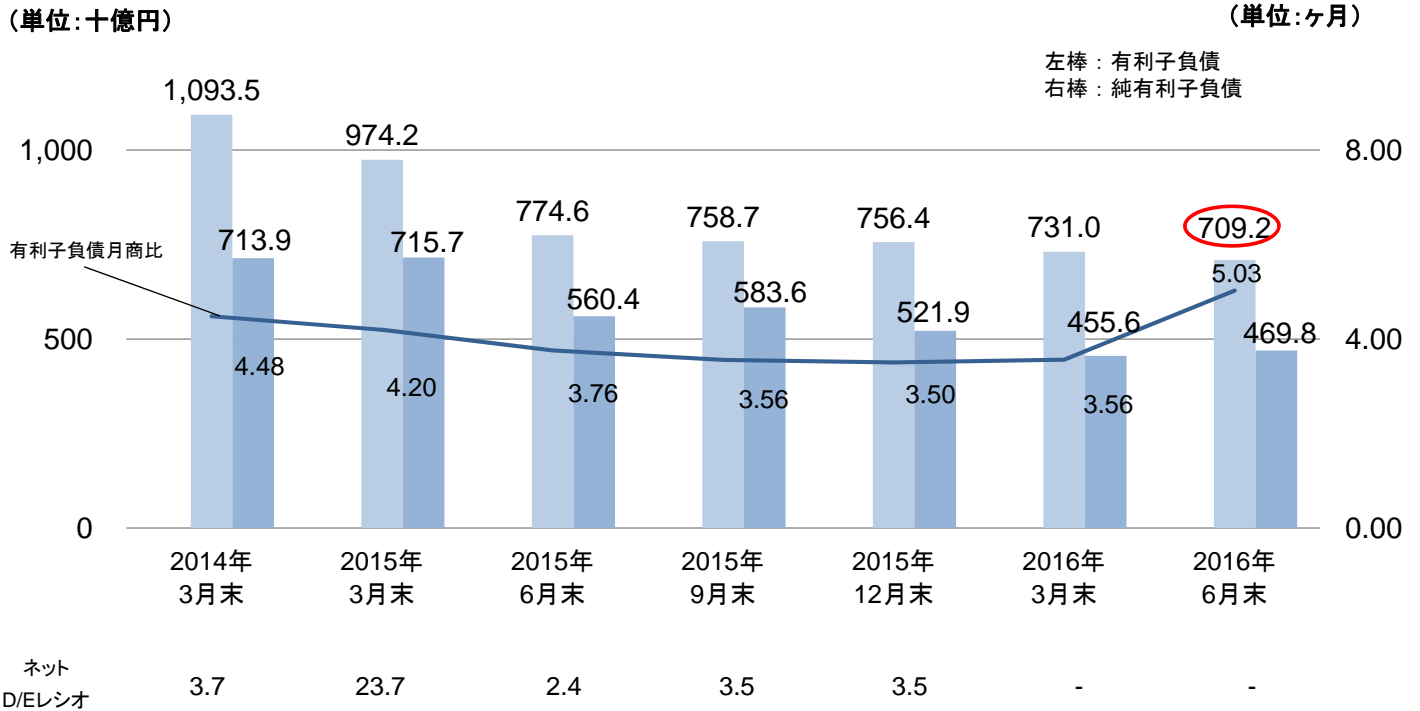
**SHARP**

10

- ・ 次のスライドは、「たな卸資産」の推移です。
- ・ 2016年度 第1四半期末の「たな卸資産」につきましては、2015年度末から、月商比では0.42ヶ月増加したものの、金額では、ほぼ横ばいの1,862億円となっています。

# 有利子負債の推移

- ・2016年6月末の有利子負債は、3月末に対し218億円減少、月商比は3.56ヶ月から5.03ヶ月に
- ・純有利子負債※は、2016年3月末の4,556億円から4,698億円に増加



※純有利子負債: 有利子負債 - 現預金

SHARP

11

- ・ 次のスライドは、有利子負債の推移です。
- ・ 2016年度 第1四半期末の有利子負債は、2015年度末から218億円減少し、7,092億円となりました。  
純有利子負債については142億円増加し、4,698億円となりました。
- ・ 引き続き在庫の適正化を進めるとともに、効率的な設備投資の実施に努め、キャッシュフローの改善を図ります。

## Ⅱ．セグメント別情報

- ・ 続いてセグメント別情報についてご説明します。

# コンシューマーエレクトロニクス

(単位:十億円)

|       | 2015年度  | 2016年度 |        |
|-------|---------|--------|--------|
|       | 1Q      | 1Q     | 前同比    |
| 売上高   | 201.9   | 153.2  | -24.1% |
| 営業利益  | -11.7   | 12.5   | -      |
| (利益率) | (-5.8%) | (8.2%) |        |

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

## 2016年度 第1四半期 (前年同期比)

- 売上高： 24.1%の減収
- 営業利益： 242億円の増益
- 構造改革の取り組みにより、液晶テレビも黒字化

**SHARP**

13

- まず、コンシューマーエレクトロニクスです。
- 売上高は、米州の液晶テレビ事業がブランドライセンスビジネスへ移行したほか、中国で液晶テレビ販売が前年を割り込んだこと、国内スマートフォン市況の低迷により販売が減少したこともあり、前年同期比24.1%減の1,532億円となりました。
- 営業利益については  
デジタル情報家電事業は、液晶テレビの欧米でのブランドライセンスビジネス移行や中国での体質改善処理により、黒字転換することができました。  
通信事業も、組織のスリム化、開発の効率化により、販売減の影響をミニマイズし、黒字を維持しています。  
また、健康・環境事業は、ASEAN発でアジア・日本でヒットしている蚊取り機能付の空気清浄機などPCI搭載商品の創出や、国内外における経費削減などにより、収益性が改善しています。
- 今後の取り組みとして、デジタル情報家電事業では、液晶テレビの4K/8Kラインアップの強化を図ります。  
通信事業では、携帯電話の国内販売シェアの拡大に向け、商品力を強化するとともに、サービス事業構成比の拡大に取り組めます。  
健康・環境事業では、クラウドと連携してレシピを提案するヘルシオなどの独自商品を創出するとともに、国内・中国・アジアでローカルフィット商品を展開していきます。  
また、各事業で引き続き経費削減の取り組みを進め、収益性のさらなる改善をめざします。

# エネルギーソリューション

(単位:十億円)

|       | 2015年度   | 2016年度   |        |                        |                       |        |
|-------|----------|----------|--------|------------------------|-----------------------|--------|
|       | 1Q       | 1Q実績     | 前同比    | 1Qの体質改善処理              | 1Q実績<br>体質改善処理<br>計上前 | 前同比    |
| 売上高   | 36.8     | 21.8     | -40.7% |                        | 21.8                  | -40.7% |
| 営業利益  | -3.9     | -6.3     | -      | ポリシリコン<br>追加評価引当金 -4.4 | -1.8                  | -      |
| (利益率) | (-10.7%) | (-28.8%) |        |                        | (-8.4%)               |        |

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

## 2016年度 第1四半期 (前年同期比)

- 売上高： 40.7%の減収
- 営業利益： 23億円の減益
- 今後の競争力を高める体質改善処理として、ポリシリコン追加評価引当金を計上

**SHARP**

14

- 次はエネルギーソリューションです。
- 国内における住宅用、産業用需要の減少などにより、売上高は、前年同期比40.7%減の218億円となりました。営業利益については、売上減少による利益減に対し、コストダウンの積み上げや経費削減による挽回を図る一方で、今後の競争力を高める体質改善処理として、買付契約評価引当金を追加計上しています。
- 今後、国内では、ゼロエネルギーハウス時代に向け、太陽電池と蓄電池、省エネ家電とを組み合わせたソリューション提案の強化に加え、保守メンテナンス等の“川下事業”の拡大により収益性改善を図ります。海外では、先般、モンゴル国初となるメガソーラー事業への参入を発表しました。今後、アジアを中心に、EPC事業の強化を図り、事業拡大に取り組んでまいります。

# ビジネスソリューション

(単位:十億円)

|       | 2015年度 | 2016年度 |        |
|-------|--------|--------|--------|
|       | 1Q     | 1Q     | 前同比    |
| 売上高   | 80.6   | 77.5   | -3.8%  |
| 営業利益  | 6.8    | 5.9    | -12.8% |
| (利益率) | (8.4%) | (7.7%) |        |

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

## 2016年度 第1四半期 (前年同期比)

- 売上高： 3.8%の減収
- 営業利益： 12.8%の減益

**SHARP**

15

- ・ 次のスライドは、ビジネスソリューションです。
- ・ 売上高は、国内では昨年発売のカラー複合機が好調に推移したものの、海外で流通在庫是正による一時的な販売減があり、前年同期比3.8%減の775億円となりました。営業利益については、経費削減に取り組んだものの、12.8%減の59億円となりました。市況低迷の影響はありましたが、依然として安定した収益性を維持しています。
- ・ 今後とも、既存商品・顧客基盤の活用による事業拡大に取り組むとともに、新規商材の開発、複合機やディスプレイを核としたソリューション事業の拡大を進め、安定的な収益の創出に努めます。



# 電子デバイス

(単位:十億円)

|               | 2015年度        | 2016年度        |        |
|---------------|---------------|---------------|--------|
|               | 1Q            | 1Q            | 前同比    |
| 売上高           | 136.6         | 75.0          | -45.1% |
| 営業利益<br>(利益率) | 2.8<br>(2.1%) | 0.5<br>(0.7%) | -82.3% |

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

## 2016年度 第1四半期 (前年同期比)

- 売上高： 45.1%の減収
- 営業利益： 82.3%の減益
- レーザー・車載カメラ・センサーが伸長

**SHARP**

16

- ・ 続いて、電子デバイスです。
- ・ 売上高は、レーザー・車載カメラ・センサーが伸長したものの、大手スマートフォン顧客向けカメラモジュールの需要減少などにより、前年同期比45.1%減の750億円となりました。営業利益については、販売減の影響はあったものの、徹底したコストダウンや経費削減を図ったことで、黒字を確保することができました。
- ・ スマートフォン向け、車載向けなど、カメラモジュール事業の強化や、センシング技術を核とした新規事業の創出・事業化により、モデルミックスを改善し、収益性の向上に取り組めます。

# ディスプレイデバイス

(単位:十億円)

|       | 2015年度  | 2016年度  |        |
|-------|---------|---------|--------|
|       | 1Q      | 1Q      | 前同比    |
| 売上高   | 187.8   | 117.0   | -37.7% |
| 営業利益  | -13.7   | -10.7   | -      |
| (利益率) | (-7.3%) | (-9.2%) |        |

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

## 2016年度 第1四半期 (前年同期比)

- 売上高： 37.7%の減収
- 営業利益： 29億円の改善

**SHARP**

17

- ・ 最後はディスプレイデバイスです。
- ・ 売上高は、需給バランス悪化による売価ダウンに伴いコモディティゾーンのテレビ用大型液晶の販売を控えたことや、大手顧客向け中小型液晶の需要が減少したことなどから、前年同期比37.7%減の1,170億円となりました。  
営業利益は、テレビ用大型液晶の販売減による稼働率低下の影響があった一方、コストダウンや固定費削減の取り組みにより中小型液晶の収益は改善し、前年同期に比べ赤字幅は縮小しましたが、107億円の赤字となりました。
- ・ 今後は、IGZO技術を活かしたPC・車載・タブレットなど中型液晶事業の拡大や採算を重視した大型液晶事業の展開を図ります。また、有機ELについては、かねてより技術開発を進め、基礎技術を蓄積していますが、これに加え、実用化に向け、長年培ってきた液晶ディスプレイのTFT技術を水平展開してまいります。

## Ⅲ. 鴻海精密工業グループとの戦略的提携について

- ・ 続いて鴻海精密工業グループとの戦略的提携についてです。

# 鴻海精密工業グループとの戦略的提携の状況

鴻海精密工業グループによる増資払込完了後、  
新体制の発足により、戦略的提携を推進

債務超過の解消と  
財務基盤の強化

事業効率を考慮し  
カンパニーを再編

シナジー効果の  
最大化を図る

必要な成長投資を行うとともに、  
競争力のある商品やサービスで、新しいIoTの世界を拓く

**SHARP**

19

- ・ 次のスライドをご覧ください。
- ・ 鴻海精密工業グループとの戦略的提携の状況につきましては、2015年度の決算発表以降、出資払込の条件となる株主総会での承認を6月23日に得ております。
- ・ 残る条件は、1ヶ国での競争法の認可取得のみとなっています。
- ・ 認可取得ののちは、直ちに投資を受け、新体制による戦略的提携を推進してまいります。

## IV. 補足資料

- ・ 最後に補足資料として、「セグメント別売上高・営業利益」「主要商品販売高」等の実績をまとめておりますのでご確認下さい。
- ・ 第1四半期は赤字を計上することとなりましたが、引き続き構造改革を断行するとともに、鴻海精密工業グループとの強固な取引関係の確立と財務基盤の強化を図り、事業の安定的な継続に努めます。

ご清聴ありがとうございました。

## 四半期 セグメント別売上高

(単位:十億円)

|                     | 2015年度 |       |       |       | 2016年度 |
|---------------------|--------|-------|-------|-------|--------|
|                     | 1Q     | 2Q    | 3Q    | 4Q    | 1Q     |
| コンシューマー<br>エレクトロニクス | 201.9  | 233.6 | 204.2 | 170.8 | 153.2  |
| エネルギー<br>ソリューション    | 36.8   | 41.8  | 34.5  | 43.5  | 21.8   |
| ビジネス<br>ソリューション     | 80.6   | 91.7  | 88.8  | 93.9  | 77.5   |
| 電子デバイス              | 136.6  | 114.6 | 146.4 | 92.3  | 75.0   |
| ディスプレイ<br>デバイス      | 187.8  | 203.3 | 226.2 | 154.1 | 117.0  |
| 小計                  | 643.9  | 685.1 | 700.3 | 554.9 | 444.7  |
| 調整額                 | -25.6  | -23.7 | -36.9 | -36.3 | -21.3  |
| 合計                  | 618.3  | 661.3 | 663.3 | 518.5 | 423.3  |

SHARP

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

21

## 四半期 セグメント別営業利益

(単位:十億円)

|                     | 2015年度           |                  |                  |                    | 2016年度           |
|---------------------|------------------|------------------|------------------|--------------------|------------------|
|                     | 1Q               | 2Q               | 3Q               | 4Q                 | 1Q               |
| コンシューマー<br>エレクトロニクス | -11.7<br>(-5.8%) | 9.7<br>(4.2%)    | 7.5<br>(3.7%)    | -27.4<br>(-16.0%)  | 12.5<br>(8.2%)   |
| エネルギー<br>ソリューション    | -3.9<br>(-10.7%) | 1.3<br>(3.2%)    | -5.0<br>(-14.7%) | -10.7<br>(-24.6%)  | -6.3<br>(-28.8%) |
| ビジネス<br>ソリューション     | 6.8<br>(8.4%)    | 9.9<br>(10.8%)   | 7.1<br>(8.0%)    | 11.9<br>(12.7%)    | 5.9<br>(7.7%)    |
| 電子デバイス              | 2.8<br>(2.1%)    | 5.1<br>(4.5%)    | 1.9<br>(1.4%)    | -8.5<br>(-9.2%)    | 0.5<br>(0.7%)    |
| ディスプレイ<br>デバイス      | -13.7<br>(-7.3%) | -12.7<br>(-6.3%) | -10.7<br>(-4.7%) | -91.9<br>(-59.6%)  | -10.7<br>(-9.2%) |
| 小計                  | -19.7<br>(-3.1%) | 13.3<br>(2.0%)   | 0.8<br>(0.1%)    | -126.6<br>(-22.8%) | 1.9<br>(0.4%)    |
| 調整額                 | -9.0             | -9.7             | -4.7             | -6.2               | -4.4             |
| 合計                  | -28.7<br>(-4.7%) | 3.5<br>(0.5%)    | -3.8<br>(-0.6%)  | -132.9<br>(-25.6%) | -2.5<br>(-0.6%)  |

SHARP

※()内の数字は営業利益率です。

22

## 四半期 主要商品販売高

(単位:十億円)

|          | 2015年度 |      |      |      | 2016年度 |
|----------|--------|------|------|------|--------|
|          | 1Q     | 2Q   | 3Q   | 4Q   | 1Q     |
| 液晶テレビ    | 64.1   | 90.5 | 81.8 | 47.7 | 44.4   |
| 台数(百万台)  | 1.41   | 1.58 | 1.72 | 1.10 | 1.00   |
| 携帯電話     | 44.1   | 39.4 | 27.4 | 35.3 | 26.5   |
| 台数(百万台)  | 1.01   | 1.25 | 0.54 | 0.89 | 0.57   |
| 冷蔵庫      | 23.0   | 25.1 | 21.1 | 21.4 | 20.8   |
| エアコン     | 20.6   | 15.3 | 8.2  | 13.4 | 16.5   |
| 複写機・複合機  | 37.2   | 40.9 | 25.0 | 33.7 | 26.8   |
| カメラモジュール | 76.0   | 47.2 | 75.1 | 43.6 | 32.6   |

SHARP

23

## 四半期 設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

|       | 2015年度 |      |      |      | 2016年度 |
|-------|--------|------|------|------|--------|
|       | 1Q     | 2Q   | 3Q   | 4Q   | 1Q     |
| 設備投資  | 9.7    | 11.1 | 8.2  | 16.0 | 10.2   |
| 内:液晶  | 3.8    | 5.1  | 4.9  | 8.9  | 5.6    |
| 減価償却費 | 18.0   | 15.7 | 17.0 | 17.2 | 13.5   |
| 研究開発費 | 36.3   | 32.3 | 33.5 | 27.9 | 29.7   |

(単位:円)

|       | 2015年度 |        |        |        | 2016年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
|       | 1Q     | 2Q     | 3Q     | 4Q     | 1Q     |
| 為替レート |        |        |        |        |        |
| 米ドル   | 120.37 | 121.24 | 120.51 | 114.49 | 107.16 |
| ユーロ   | 132.66 | 134.48 | 131.46 | 125.71 | 120.53 |

SHARP

24

**SHARP**